

令和2年3月14日

南の風 335

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

320号に掲載したテーマ、『私が今までバスケットボールの指導をどのように学んできたか、またコーチングで大事にしていることは何か』のまとめです。

詳しい内容は前号までの通りです。

ここでは、私の指導理念について書きます。三つあります。

永田台で指導を始めてから変わっていません。

一つ目は、『バスケットボールの活動を通して、自立すること』

二つ目は、『感謝の気持ちを持って活動すること』

三つ目は、『一人ひとりが正しい基礎・基本スキルを身につけること』

三つのうち、『自立』について書きます。

指導対象が小学生ですから、それぞれの学年に応じ、『自分のことが自分でできること』が第一です。

1年生から6年生までの選手が在籍している中、低・中・高学年に分け練習の準備やまた後片付けなど、自分の役割を自分の力でおこなうことができるようにしています。保護者会とスタッフが協力して指導・支援に当たっています。特に気を付けていることは、大人（スタッフや保護者）が何でも先回りしてやってしまうことがないようにすることです。子どもたちは気がつかないことが多いものです。一度や二度言ってもすぐ行動できないですし、気が利かないことも多々あります。指示するタイミング（周りの大人が待つことも大事）や無理なことに対する支援の間合いも大切です。

そして私は自立の究極の目標を『まわりの人のために尽くし、喜んでもらうこと』と定義しています。『自立』の最終的な形は、自己から離れて『人のために』となるのだと思っているからです。

ミニバスケットボールの時代に、この目標に到達することはとても難しいことです。活動の折に触れて意識させるようにしています。

二つ目の『感謝の気持ちを持つ』ことについてです。

まず選手一人ひとりが、「自分ひとりではバスケットボールの活動はできない。」また「自分のチームだけでも活動はできない。」と自覚することが必要です。そのためにはスタッフや保護者、所属組織の関係者が、活動の折に触れて気付かせるようにすることが大事になります。

- ①活動を支えてくれる家族への感謝 ②一緒に活動してくれる仲間への感謝
- ③バスケットボールの基本や技術を教えてくれる指導者への感謝
- ④活動を見守ってくれたり、各会場へ引率してくれたり、活動全般の支援をしてくれたりする保護者会の方や関係者への感謝
- ⑤練習や試合のための会場を提供してくれる大会関係者や所属組織の方への感謝
- ⑥大会の試合や練習試合をしてくれる相手チームへの感謝、並びに試合運営に携わる審判、TOやコートキーパーの人たちへの感謝

「たくさんの人たちに支えられて、バスケットボールの活動ができています」ということです。